

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4136182号

(P4136182)

(45) 発行日 平成20年8月20日(2008.8.20)

(24) 登録日 平成20年6月13日(2008.6.13)

(51) Int.Cl.

F 1

A 6 1 F 13/02 (2006.01)

A 6 1 F 13/02 3 4 5

請求項の数 3 (全 8 頁)

(21) 出願番号 特願平11-124708
(22) 出願日 平成11年3月27日(1999.3.27)
(65) 公開番号 特開2000-271164(P2000-271164A)
(43) 公開日 平成12年10月3日(2000.10.3)
審査請求日 平成18年3月22日(2006.3.22)

(73) 特許権者 391003484
阿蘇製薬株式会社
熊本県菊池郡菊陽町津久礼9-1の1
(74) 代理人 100087251
弁理士 門奈 清
(72) 発明者 村田 尚昭
熊本県菊池郡菊陽町津久礼9-1-1 阿蘇
製薬株式会社内

審査官 ニッ谷 裕子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 救急用絆創膏

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

上面に軟膏薬を付着又は塗布しているパッドを粘着シートの上面中央部に貼着すると共に、中央部に上方に向かって膨出成形したブリスター部を有し且つ該ブリスター部の下面に、上記パッド上に当接することによって該ブリスター部の下方への変形を防止する突起を突設してなる軟膏薬保護カバーを上記粘着シートに剥離可能に貼着し、この軟膏薬保護カバーの上記ブリスター部内に上記パッドを収納して該パッド上に付着又は塗布している軟膏薬をこのブリスター部によって被覆してなることを特徴とする救急用絆創膏。

【請求項 2】

粘着シートの上面中央部に該粘着シートの粘着剤の成分透過を阻止するガードフィルムを貼着し、このガードフィルム上にパッドを貼着していることを特徴とする請求項 1 に記載の救急用絆創膏。

【請求項 3】

軟膏薬保護カバーの端部と粘着シートの端部間に剥離紙片を介在させていることを特徴とする請求項 1 に記載の救急用絆創膏。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、軟膏薬を塗布又は付着しているパッドを創傷口等の局所の皮膚面に当てがうことによって創傷口や虫さされ等の治療を行うようにした救急用絆創膏に関するものである

10

20

。

【 0 0 0 2 】

【 従来 の 技術 】

従来から、救急用絆創膏としては種々のものが市販されており、例えば、粘着シートの上面中央部に殺菌消毒剤や創傷治療剤等の薬剤を含浸、乾燥させたガーゼ等のパッドを貼着し、該パッドの上面を左右に分離可能な剥離紙で被覆してなる絆創膏が広く知られているが、このような構造の絆創膏では、薬剤が乾燥状態になっているために、創傷口を傷める虞れがあるばかりでなく、創傷口に当てがっても、創傷部からの分泌物によってパッド部の薬剤が溶出してこない限り、有効な殺菌、治療効果を得ることができない。

【 0 0 0 3 】

このため、パッドに薬剤を含浸、硬化させることなく、パッドの上面に薬液を封入してなるカプセル体を重ね合わせ、使用時に該カプセル体の上面壁を押圧することによってその上面壁の下面中央に突設した先端が先鋭な突起でカプセル体の底面を形成しているアルミ箔製の薄膜を破壊し、カプセル体内の薬液をパッド上に流出、含浸させるように構成した救急用絆創膏が開発されている。

【 0 0 0 4 】

【 発明 が 解決 し よ う と す る 課 題 】

しかしながら、このような救急用絆創膏では、カプセル体内に薬液を密封しなければならないために、その製造に著しい工数と費用を要して製品が高価につくばかりでなく、使用に際しては上述したようにカプセル体を破壊させなければならず、その際に薬液が飛び散ってパッドに正確に含浸させることができない事態が生じることがある。

【 0 0 0 5 】

また、上記いずれの救急用絆創膏においても、流動性の大きな薬液を採用しているために、パッドの表面が創傷口に直接付着して取り外す時に傷みを伴うと共に創傷口が再び開口して完治が遅くなるという問題点がある。このため、パッド上に薬液に代わって軟膏薬を塗布又は付着した救急用絆創膏が要望されているが、パッドを剥離紙等によって被覆すると、携行中や使用に際して、剥離紙の表面に外圧が加わると軟膏薬が押し潰されてパッドからはみ出し、使用に供することができなくなる場合が生じると共に、剥離紙等を剥離した場合、該剥離紙等の裏面に軟膏薬が転着して軟膏薬の有効使用量が減少することになる。

【 0 0 0 6 】

このような不測の外圧力による軟膏薬の押し潰しをなくするために、上記カプセル体内に軟膏薬を封入すると、軟膏薬は既にカプセル体の内壁面に付着しているので、該カプセル体を押圧変形してその押圧力によりカプセル体の底面を形成しているアルミ箔製の薄膜を破壊させても有効量の軟膏薬をパッド上に転着させることは困難であるという問題点を有する。

【 0 0 0 7 】

本発明は上記のような問題点に鑑みてなされたもので、その目的とするところは、簡単な構造によってパッド上に付着又は塗布している軟膏薬を長期間に亘り変質させることなく密封可能にすると共に外圧によっても軟膏薬の圧潰、変形が生じ難く、且つ従来の救急用絆創膏と同様に簡単に使用できる救急用絆創膏を提供するにある。

【 0 0 0 8 】

【 課 題 を 解 決 す る た め の 手 段 】

上記目的を達成するために、本発明の救急用絆創膏は、請求項 1 に記載したように、上面に軟膏薬を付着又は塗布しているパッドを粘着シートの上面中央部に貼着すると共に、中央部に上方に向かって膨出成形したブリスター部を有し且つ該ブリスター部の下面に、上記パッド上に当接することによって該ブリスター部の下方への変形を防止する突起を突設してなる軟膏薬保護カバーを上記粘着シートに剥離可能に貼着し、この軟膏薬保護カバーの上記ブリスター部内に上記パッドを収納して該パッド上に付着又は塗布している軟膏薬をこのブリスター部によって被覆してなる構造としている。

【 0 0 0 9 】

上記救急用絆創膏において請求項 2 に係る発明は、上記粘着シートの上面中央部に該粘着シートの粘着剤の成分透過を阻止するガードフィルムを貼着し、このガードフィルム上に軟膏薬を塗布ないしは付着させている上記パッドを貼着していることを特徴としている。また、請求項 3 に係る発明は、上記軟膏薬保護カバーの端部と粘着シートの端部間に剥離紙片を介在させたことを特徴としている。

【 0 0 1 0 】

【作用】

パッド上の軟膏薬は軟膏薬保護カバーのプリスター部によって被覆され、且つこの軟膏薬保護カバーは粘着シートに貼着しているので、軟膏薬は外気と完全に遮断された状態でプリスター部内に密封され、長期間に亘って変質や硬化が生じる虞れはない。さらに、携行中や使用時等においてプリスター部が不測に外圧によって押圧された際に、該プリスター部の下面に突設している変形防止用突起がパッド上に受止されてプリスター部が下方に湾曲変形するのを阻止され、そのため、パッド上の軟膏薬を押し潰したりする虞れは生じなく、その上、プリスター部の下面に軟膏薬が転着することも防止することができてパッド上の殆ど全ての軟膏薬を治療に供し得る。

【 0 0 1 1 】

また、粘着シートから軟膏薬保護カバーを剥離させるだけで、直ちに創傷口や虫さされ等の局所の皮膚面（以下、単に創傷口とする）に貼着して使用することができ、軟膏薬はパッドに含浸した薬液とは異なってパッドを直接創傷口に付着させることはなく、創傷口をソフトに被覆して良好な貼付感を与えることができると共に治療後に剥離する際にも創傷口を拡げたり傷みを伴うことなく簡単に剥離することができる。

【 0 0 1 2 】

さらに、粘着シートの上面に軟膏薬保護カバーを剥離可能に貼着し、この軟膏薬保護カバーのプリスター部によってパッドを被覆した簡単な構造であるので、製造が容易で安価に提供することができると共に軟膏薬保護カバーが剥離紙の役目を行っているので、使用が簡易となる。この場合、請求項 3 に記載したように軟膏薬保護カバーの端部と粘着シートの端部間に剥離紙片を介在させておくことによって、軟膏薬保護カバーの端部が該剥離紙片上に載置させているので、該軟膏薬保護カバーの端部を摘んでワンタッチでこの軟膏薬保護カバーを剥離してパッドを露出させることができる。

【 0 0 1 3 】

また、請求項 2 に係る発明によれば、上記粘着シートの上面中央部に該粘着シートの粘着剤の成分透過を阻止するガスバリア性を有するガードフィルムを貼着し、このガードフィルム上に軟膏薬を塗布ないしは付着させているパッドを貼着しているので、軟膏薬が粘着シート上の粘着剤成分によって化学的反應するのを確実に抑制され、軟膏薬の効力が長期間に亘って保持される。

【 0 0 1 4 】

【発明の実施の形態】

次に、本発明の具体的な実施の形態を図面について説明すると、図 1 ～ 図 4 において、1 は柔軟性を有する合成樹脂製シート又は不織布、織布、紙等の上面に粘着剤 2 を塗布してなる長形状の粘着シートで、その長さ方向の上面中央部に矩形状の薄いガスバリア性を有するガードフィルム 3 を介して該ガードフィルム 3 とほぼ同形、同大のガーゼなどの殺菌消毒された布帛よりなるパッド 4 を貼着していると共に、このパッド 4 の上面に一定量の軟膏薬 5 を付着又は塗布することによって配設している。

【 0 0 1 5 】

パッド 4 上に対して一定量の軟膏薬 5 を設けるには軟膏薬 5 を小塊状に供給して付着させてもよく、或いは軟膏薬 5 を層状に塗布してもよい。ガードフィルム 3 上に対する上記パッド 4 の固定は、該パッド 4 の周縁一部を粘着シート 1 の粘着剤 2 に付着させておくか、或いは、パッド 4 の下面の一部に軟膏薬 5 の成分に影響を及ぼさない接着剤を塗布しておき、この接着剤によって付着させておけばよい。

【 0 0 1 6 】

6は非通気性で且つ適度な剛性を有する塩化ビニル樹脂等の合成樹脂製薄肉シートよりなる軟膏薬保護カバーで、上記粘着シート1と同一幅で且つ該粘着シート1よりも長さの短い長方形に形成されており、その中央部を上方に膨出させることによって四方周壁部7aと平坦な天壁部7bとからなる下端が全面的に開口7cした平面矩形状のプリスター部7を形成している。このプリスター部7の深さ、即ち、上記四方周壁部7aの高さは上記軟膏薬5を付着又は塗布しているパッド4の厚み（パッド4の下面から軟膏薬5の上面間の厚み）よりも大きく形成していると共に四方周壁部7aの内周面で囲まれた面積はパッド4の面積よりも大きく形成して該プリスター部7内に軟膏薬5を付着又は塗布しているパッド4を収納してあり、プリスター部7の四方周縁部の軟膏薬保護カバー6の下面を粘着シート1の粘着剤2に剥離可能に貼着している。

10

【 0 0 1 7 】

さらに、上記プリスター部7における天壁部7bの下面中央部には下端がパッド4の上面に当接している突起8を下方に向かって突設している。この突起8は突出端面、即ち、下端部が断面凸円弧状又は平坦な面8aに形成されていてこの突出端面8aをパッド4の上面に当接、受止させてあり、従って、プリスター部7に下方に向かって押圧力が作用しても天壁部7bが下方に撓み変形するのを阻止し、天壁部7bとパッド4上に付着または塗布している軟膏薬5との間に常に小間隔を維持して軟膏薬5が天壁部7bの下面に付着するのを防止している。なお、上記突起8は1個に限らず数個の突起を天壁部7bの下面に小間隔毎に突設しておいてもよい。

20

【 0 0 1 8 】

また、突起8は、その突出端面8aをパッド4の上面に当接、受止させている関係上、パッド4上に付着又は塗布している軟膏薬5の一部内に突入した状態となっているが、この突起8に付着する軟膏薬5の量は僅かであり、軟膏薬保護カバー6を粘着シート1上から剥離した際にパッド4上の軟膏薬5の形状を大きく変形させる虞れはない。なお、突起8の突出部以外のパッド4上に軟膏薬5を付着又は塗布しておいてもよい。

【 0 0 1 9 】

9、9は粘着シート1の長さ方向の両端部上に剥離可能に貼着した剥離紙片で、この剥離紙片9、9の内端部を上方に折り返して重ね端部9a、9aとし、該重ね端部9a、9a上に上記軟膏薬保護カバー6の長さ方向の両端部を接着することなく載置している。

30

【 0 0 2 0 】

このように構成した救急用絆創膏Aは図1～図3に示すように、例えば、透明乃至は半透明の小袋B内に密封状態で収納されており、使用時において該小袋Bを破って救急用絆創膏Aを取り出すようにしているが、必ずしも小袋B内に収納しておく必要はなく、多数枚の救急用絆創膏Aを積層状態で箱内に収納しておいてもよい。

【 0 0 2 1 】

使用前の上記救急用絆創膏Aにおいては、粘着シート1上に貼着しているパッド4が軟膏薬保護カバー6のプリスター部7内に収納され、且つ該プリスター部7の四方周縁部、即ち軟膏薬保護カバー6の下面が粘着シート1に貼着しているので、パッド4がプリスター部7内に密封された状態となって該パッド4の上面に付着又は塗布している軟膏薬5が経時的に変質したり硬化するのを長期間に亘って防止し得る。さらに、プリスター部7の天壁部7bの下面に突設している突起8の突出端面8aがパッド4の上面に当接しているので、プリスター部7の天壁部7bにパッド4に向かって押圧力等の外圧が作用しても、天壁部7bがパッド4に向かって湾曲変形することはなく、従って、天壁部7bの下面に軟膏薬5が付着するのを防止し得る。

40

【 0 0 2 2 】

次に、使用に際しては、図5(a)～(d)に示すように軟膏薬保護カバー6を剥離すれば粘着シート1上に貼着しているパッド4が露出するので、該パッド4上に付着又は塗布している軟膏薬5を創傷口に押し付けるようにしてパッド4を当てがい、粘着シート1を皮膚面に貼着する。この際、軟膏薬保護カバー6の両端部は粘着シート1の両端部上に貼

50

着している剥離紙片 9、9 の重ね端部 9 a、9 a 上に接着することなく載置されているので、該軟膏薬保護カバー 6 の端部を摘んで粘着シート 1 から引き離すことによりワンタッチで軟膏薬保護カバー 6 を除去してパッド 4 を露出させることができ、粘着シート 1 から剥離紙片 9、9 を剥離することによって簡単に使用し得る。

【0023】

なお、プリスター部 7 の天壁部 7 b の下面に突設した上記突起 8 はその突出端面 8 a をパッド 4 上に当接させておくことなく、近接させた状態にして天壁部 7 b が僅かに下方に撓み変形した時に該突出端面 8 a をパッド 4 上に当接、受止させるように構成しておいてもよく、要するに、突起 8 をパッド 4 上に当接させることによって天壁部 7 b の下面にパッド 4 上の軟膏薬 5 が付着するのを防止できるようにしておけばよい。

10

【0024】

【発明の効果】

以上のように本発明の救急用絆創膏によれば、上面に軟膏薬を付着又は塗布しているパッドを粘着シートの上面中央部に貼着すると共に、中央部に上方に向かって膨出成形したプリスター部を有し且つ該プリスター部の下面に、上記パッド上に当接することによって該プリスター部の下方への変形を防止する突起を突設してなる軟膏薬保護カバーを上記粘着シートに剥離可能に貼着し、この軟膏薬保護カバーの上記プリスター部内に上記パッドを収納して該パッド上に付着又は塗布している軟膏薬をこのプリスター部によって被覆してなる構造を有しているものであるから、パッド上の軟膏薬を軟膏薬保護カバーのプリスター部内に収納した状態にして軟膏薬保護カバーの下面を粘着シートに貼着しているので、パッド上の軟膏薬は外気と完全に遮断された状態でプリスター部内に密封された状態となり、長期間に亘って変質や硬化が生じる虞れはなく、所定の効力を維持し得るものである。

20

【0025】

さらに、救急用絆創膏を携行中に或いは取扱時等において、プリスター部にパッド側に向かって不測に押圧力が作用しても、該プリスター部の下面に突設している変形防止用突起がパッド上に受止されてプリスター部が下方に湾曲変形するのを確実に阻止することができ、従って、パッド上の軟膏薬を押し潰したりする虞れは生じないばかりでなくプリスター部の下面に軟膏薬が転着することも防止することができてパッド上の殆ど全ての軟膏薬を治療に供し得ることができる。

30

【0026】

また、粘着シートから軟膏薬保護カバーを剥離させるだけで、パッド上の軟膏薬を付着又は塗布した形態をそのまま維持させた状態で簡単にパッドを露出させることができ、直ちに創傷口に貼着して使用することができ、その上、軟膏薬はパッドに含浸した薬液とは異なってパッドを直接創傷口に付着させることはなく、創傷口をソフトに被覆して良好な貼付感を与えることができると共に治療後に剥離する際にも創傷口を拡げたり傷みを伴うことなく簡単に剥離することができる。

【0027】

さらに、粘着シートの上面に軟膏薬保護カバーを剥離可能に貼着し、この軟膏薬保護カバーのプリスター部によってパッドを被覆した簡単な構造であるので、製造が容易で安価に提供することができると共に軟膏薬保護カバーが剥離紙の役目を行っているので、上述したようにワンタッチでパッドを露出させることができ、使用が簡易となる。この場合、請求項 3 に係る発明では、軟膏薬保護カバーの端部と粘着シートの端部間に剥離紙片を介在させているので、該剥離紙片上の上記軟膏薬保護カバーの端部を摘んで粘着シートから引き離すことによりワンタッチでこの軟膏薬保護カバーを剥離してパッドを露出させることができる。

40

【0028】

また、請求項 2 に係る発明によれば、上記粘着シートの上面中央部に該粘着シートの粘着剤の成分透過を阻止するガスバリア性を有するガードフィルムを貼着し、このガードフィルム上に軟膏薬を塗布ないしは付着させているパッドを貼着しているので、軟膏薬が粘着

50

シート上の粘着剤成分によって化学的反應するのを確実に抑制することができ、軟膏薬の効力が長期間に亘って保持し得る。

【図面の簡単な説明】

【図 1】小袋内に収納した救急用絆創膏の縦断側面図、

【図 2】その一部を切欠いた斜視図、

【図 3】平面図、

【図 4】救急用絆創膏の分解側面図、

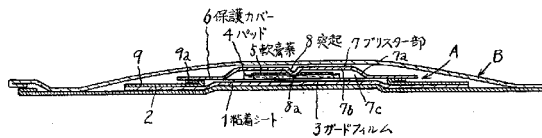
【図 5】使用順序を示した斜視図。

【符号の説明】

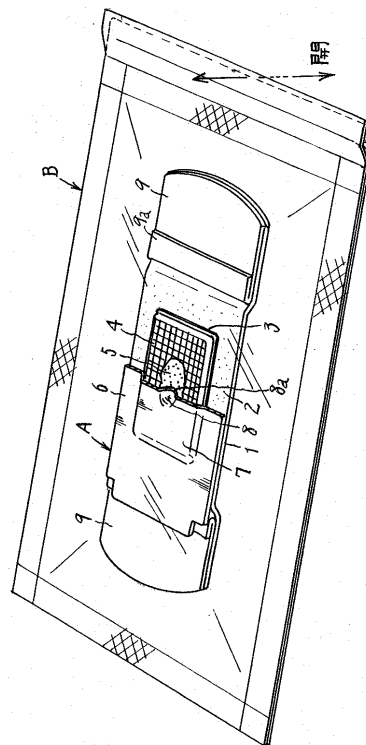
- 1 粘着シート
- 3 ガードフィルム
- 4 パッド
- 5 軟膏薬
- 6 軟膏薬保護カバー
- 7 プリスター部
- 8 突起
- 9 剥離紙片

10

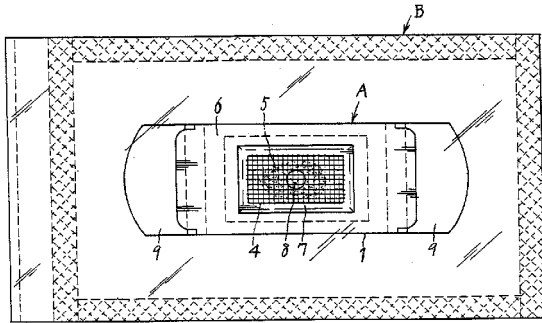
【図 1】



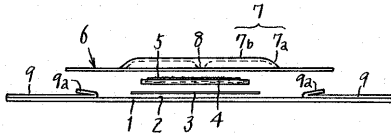
【図 2】



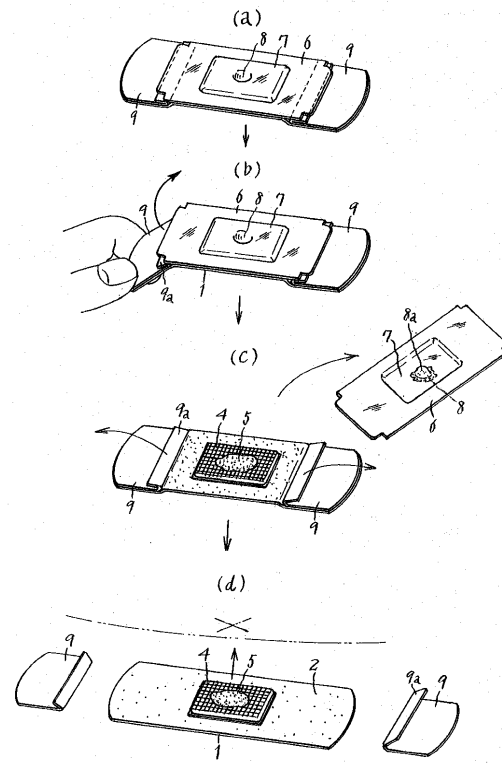
【図 3】



【図 4】



【図 5】



フロントページの続き

- (56)参考文献 実開平09-000251(JP,U)
特開平03-247335(JP,A)
実開昭60-063324(JP,U)
実開昭63-050320(JP,U)
実開平03-122521(JP,U)
実開昭60-015340(JP,U)
実開平01-104122(JP,U)
実開昭63-092621(JP,U)
特開平03-043372(JP,A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

A61F 13/02